3

沖縄作戦ニ於ケル第二船舶輸送司令部沖縄支部史實資料

昭和二十二年三月二十五日
第三十二軍残務整理部

一、部隊行動及戰斗經過ノ概要

第七船舶輸送司令部沖縄支部ハ那覇港ノ揚陸場並ニ南西諸島ノ兵力配置ノ任ヲ帶ビ昭和廿九年三月宮崎ニ於テ編成下士官ヨリ成ル海場要員トシ四月三日鹿兒島港ヲ出發奄美大島經由那覇港ニ四月九日上陸四月十日ヨリ昭和二十年三月末日迄揚陸場ニ服務ス、

特設第八駆隊（平賀部隊）戰斗ノ概況

一、昭和二十年三月廿三日那覇港ニ沖ノ山丸鳥海丸ノ二隻揚陸碇泊中ノ處敵艦隊ノ接近ヲ知ルヤ直ニ部隊ヘ船舶ノ保安ヲ命ジ二十五日迄那覇港ニ位置シ發煙筒ヲ以テ船舶ノ掩護ニ任セリ

一、三月二十三日長堂ニ当部隊全員移動シ特設第六聯隊ヲ編成敵落下傘部隊襲撃ノ任ヲ帶ビ四月末日迄長堂ニ位置シ

一、四月二十日ノ大空襲ノ為メ部隊全滅ス

防衛ノ為メ聯隊本部ヲ那覇（具志頭ノ北方）ニ移動シ第一線ヲ安里
五一、高地ニ進出セシム
一、五月十四日十五日ノ五一、七高地、壹岐ノ激烈ナル手榴弾戦ニ於テハ八島義行軍曹以下壮烈ナル戦死ヲ遂ゲ兵力約一〇（一個中隊）ニ減少セリ
一、五月二十五日頃長田福次郎軍曹ハ所属長トナリ那覇西里ノ中間地点ニ於テ頭部貫通銃創ヲ受ケ壮烈ナル戦死ヲ遂ゲ
一、五月二十五日頃ヨリ毎日数人ヨリナル斬込隊ハ敵集積地々ハ国民学校附近ニ出動シ敵ニ多大ナル出血ヲ與フ
一、五月二十九日頃ヨリハ益々敵兵力ヲ増強シ那覇ヲ一挙ニ奪取セントス
コヽニ彼我苛烈ナル戦斗ヲ交フ、五月三十日愈々敵具志頭ニ侵入
我ハ馬乗リ攻撃ス、昼夜間彼我投入シ出入口ヲ爆雷ヲ以テ
塞ガントス、コヽニ於テ夜間斬込壹岐ノ手榴弾ノ戦ニ於テ平賀
聯隊ノ為メハ壮烈ナル戦死ヲ遂ゲ

一、六月一日当聯隊ハ八重瀬岳ニ撤退命令下ル
部隊長以下生存者ハ夜間十二時ヲ期シ ソレ〳〵三、三、二、二トナリ
洞窟ヲ脱出、八重瀬岳ニ向フ
一、聯隊ハ敵ハ岳ヲ利用シ機関銃ヲ据ヘ所々ニ点在ス
六月二、三日ニ目的ヤ到達セルモノ僅カニ一五〇名内外ト思考ス
二、六月四日兵力数減ノ為メ負傷者モ加ヘ再編ニ付
一、六月十二日頃ヨリ〳〵敵近接ス緑葉ニ敵ハレシ八重瀬岳ハ所
ニ赤色ニ或ハ白色ニ発煙ノ為変色シ昔ノ面影更ニナシ
六月十四日午后戦車砲ヲ以テ我ニ対シ迫ル友軍ハ近接スルヲ待
チ一撃ニ手榴弾ノ総攻撃ヲ開始ス、敵ニ多大ノ出血ヲ與ヘタルモ我
モ亦甚大ナル損害ヲ受ク洞窟外ハ戦友死屍ヲ拝テ山積ス
敵ハ再ビ馬乗攻撃ヲ以テ洞窟間ニ黄燐弾発煙筒ヲ投入ス然モ絶
モ手榴弾戦ハ繰行ス、遂ニ爆雷ヲ投入セラレ洞窟ハ大音響トサ
ニ落下、聯隊本部生存者僅カニ二名ノ状態ナリ、

山上ニ位置セシ各中隊ノ状況不明、敵ト交戦シ生存者八斬込ヲ行ヒ摩之仁方面ニ轉進シ、ゲリラ戦ヲ續行セシ模様ナリ、下三、三五五十リシ戰文ハ部隊ト連絡不可能ノ為メ、ソレ〳〵山岳地ニ或ヒハ[illegible]地ニ潜伏シ、ゲリラ戦ヲ續行セシ現況ナリ、